

桃の花の切り紙

保育室に桃の花を挿しておき、これを見て切らせる、枝は茶色或はみぎりのクレヨンでかゝせる。

粘土 一回

自在につくらせる。

ぬりゑ 一回

ラップスキセン

ラップスキセンが用意出来ればお部屋に挿しておく、な

い時はお手本を見てぬらせる。

第十週

自由畫 二回

粘土 一回

動物の繪本或は寫真なごをよく見せて動物をつくる材料を與へておく。

手足を胴によくつけるやうに、心にヒゴをさしその上を粘土を二重につける事、一度に出来ない時には濡雑巾をかぶせて次の時につけてつくる事なご注意する。

年長組、第三保育期

生活訓練

第六週

幼児にミつて幼稚園生活の終りが近づいて來た。ミ同時

に、小學校入學ミいふ楽しいこゝが近づいて來た。その練習も少しは心がけてやらなければなるまい。

但し、だからさいつて、何も急に幼稚園を小學校にする
こいふ譯ではない。今まで行つて來た訓練が、皆、つまり
は小學校へ役立つ筈のものである。若し、此の期に及んで
事新しい點があるさすれば、子ぎもの心の前に小學校の
樂しみが、あり〜こあるこいふ點であらう。その意味
で、いはゞ、小學校こここいつた風の、多少のまこまり
がつけ易いであらう。

第十週

此の保育案では、第十週こなつてゐるが、第十一週のこ
ころも、第十二週のこころもあらう。要は、保育の修了週
である。こゝでよろこばしき諸注意こある。悲しき注意
苦しき注意なんてものがある筈はないが、殊によろこばし
きここわりをつけたのは、先生が、ここによつたら別れ
を惜んで、センチになられ、「もうお別れね。」「いつまでも
覚えてるて下さい。」「いつまた會へるでせう。」「時々思ひ

出して下さいね。」「…ね。」「…ね。」「ね——。」「でしん
みりなさつたりしてはいけないと思つての御注意である。
年月いこし保育して來た子ぎも達が、幼稚園を見捨て、
小學校へ宿がへして仕舞ふ。それが何んで悲しい。わが子
の出世の旅出を送るのにも悲しい顔一つ見せないのが賢母
である。幼児の始めての此の出世、假りにも悲しい顔なん
か見せたら賢母こはいへない。さればこそ、よろこばし
き諸注意である。さいつて、そう一々「よろこばしいのね」。
「よろこばしいのね——。」「こはやし立てなくてもいい。幼
兒は先刻既に、よろこばしいのであるから。
さて、解説子も、こゝで系統的保育案の實際の解説が終
つてよろこばしい。すべて、始めたここが終了するこいふ
ここは、まここに、よろこばしいここである。幼児もめで
たしく。解説子もめでたしく。